

多様化する廃棄物の減容化と再資源化を行い、
水質保全にも万全を期した管理型最終処分施設で、
自然環境との調和を図っています。

施設の概要

| | | | |
|----------|--------------|-----------------------------|-------|
| 名称: | 平田不燃物処理センター | | |
| 所在地: | 出雲市十六島1485-2 | | |
| 着工: | 昭和61年9月14日 | | |
| 竣工: | 昭和63年3月25日 | | |
| 規格: | 総面積: | 51,752㎡ | |
| | 埋立面積: | 9,050㎡ | |
| | 埋立容量: | 58,270㎡ | |
| 埋立方式: | 準好気性埋立セル方式 | | |
| 埋立処分地施設: | 擁壁等流出防止設備: | アースフィルダム(土堰堤) | |
| | | ダム高さ: | 20.5m |
| | | ダム天端幅: | 10.0m |
| | | 堤長: | 60.5m |
| 前処理施設: | 処理能力: | 20t/5H | |
| | 選別能力: | 5種選別 | |
| | トラックスケール: | 20t軽量 | |
| 浸出液処理施設: | 処理能力: | 45㎡/日(最大170㎡/日) | |
| | 処理方式: | 凝集沈殿処理、生物処理(接触曝気方式)、ろ過、吸着処理 | |



↑ 管理棟と計量器(トラックスケール)



↑ 埋立処分地

5. 運転、操作監視装置

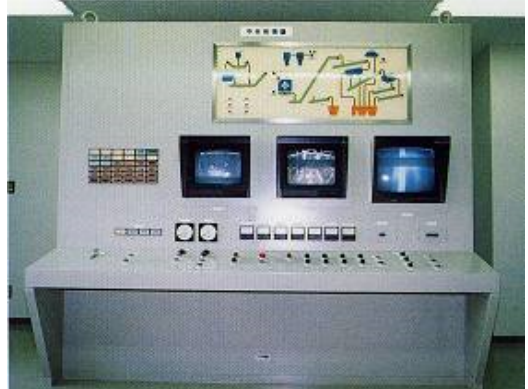
運転は受入ホツパや受入コンベアを直接監視しながら、破碎機内部や遠方をモニターテレビの監視によって行います。



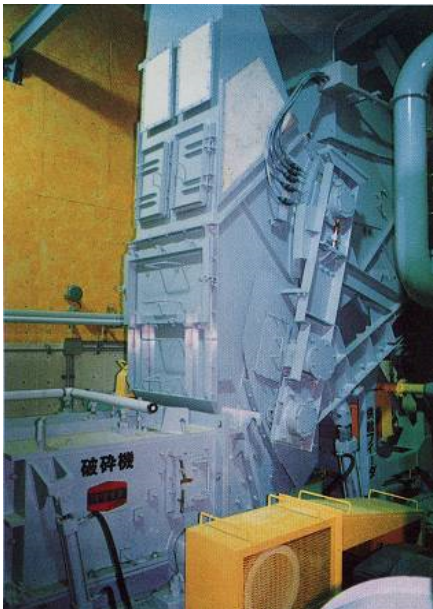
↑ 受入ホツパ及び供給コンベヤ



↑ 排出コンベヤ



↑ 中央制御盤



↑ 破碎機



↑ 磁選機



↑ アルミ選別機



↑ トロンメル



↑ 貯蓄ホツパ

浸出液処理施設

埋立地内で発生した浸出液をよりし、「安全で安定した水質」として放流するための施設です。

生物処理による有機性汚濁物質の除去に加えて、有害な重金属類や窒素分及び色度等をも除去する第三次処理を備えた高度な処理技術を採用しています。

【処理のしくみ】

1. 流入調整設備

浸出集水樹からスクリーン及び沈砂槽で粗大夾雑物と砂れきが除去され、水量調整槽へ流入します。

水量調整槽で水量及び水質の変動を緩和し、均質化された原水を、ポンプで定量的に生物処理設備へ供給します。

2. 生物処理設備

生物処理の前段では、微生物への悪影響を与えないように原水のPH調整を行います。

好気性微生物による有機物質(BOD等)の除去と酸硝化を行い、嫌気性微生物による脱窒を行います。

3. 凝集沈殿汚泥処理設備

生物処理後の、主として懸濁物質を除去するために凝集沈殿処理します。

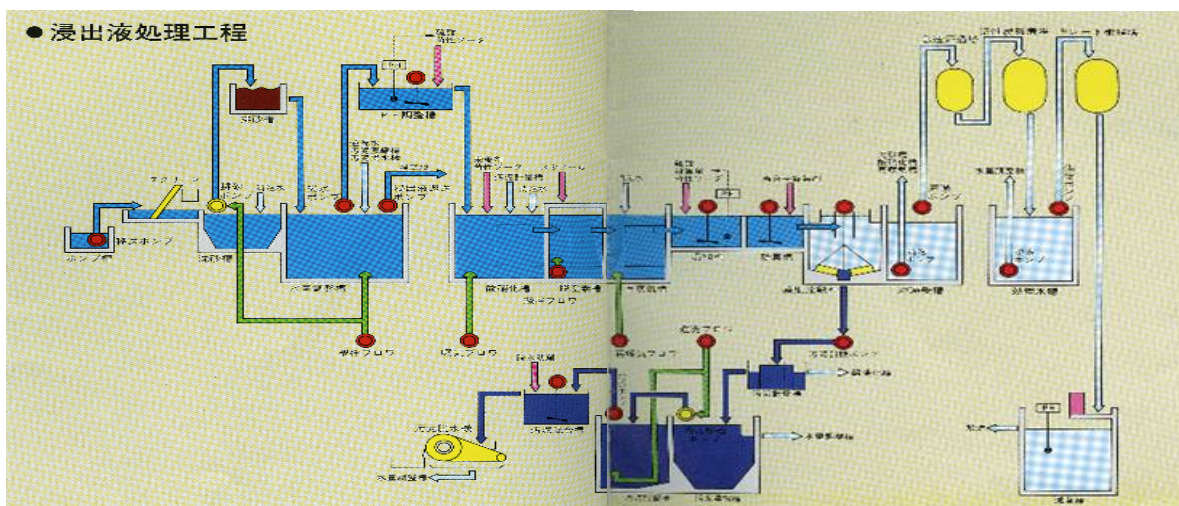
固液分離された沈殿汚泥は脱水処理され、埋立地へ搬出されます。

4. ろ過・吸着設備

沈殿槽からの上澄液は、ろ過・吸着設備へ供給され、急速ろ過塔で残留CODが、キレート樹脂塔では水銀等の残留重金属が除去され、清澄な処理水となります。

5. 滅菌放流設備

処理水は、最終的に塩素による滅菌が行われた後、安全で安定した水質となって放流されます。





▲ 浸出処理棟



▲ 浸出液処理装置



▲ 汚泥脱水機及び各種器機類



▲ 生物処理及び凝集沈殿処理装置



▲ ろ過・吸着設備



▲ ろ過・吸着塔